

議 事 要 旨

内容	第 5 回福知山市新文化ホール基本計画再検討委員会
実施日時	2025 年 3 月 26 日（水）13:30-15:30
場所	福知山市厚生会館 中会場
参加者	委員 足立直敬、菊田学美、四方正道、谷垣修身、谷垣均、中村豪文、淵上紫乃、前田竹司、 夜久豊基 アドバイザー 生田創 事務局（福知山市） 森田、井上、岩木、山本、梅原
使用資料	・第 5 回福知山市新文化ホール基本計画再検討委員会資料

◆主な検討結果

サウンディング型市場調査について

第 4 回で検討した建設候補地を踏まえた実現可能性を図るために、再検討の内容を踏まえた質問を整理してサウンディングを実施し、その結果を資料として第 6 回目以降の再検討委員会にて検討を進める。

議論の要旨

1. 開会

- ・（事務局）サウンディング調査についての議論、再検討内容についての再確認を予定している。

2. 報告事項

（１）地域別市民説明会の開催状況について

―地域別市民説明会の開催についての説明―

- ・（委員 E）参加人数が少ないということについて、市民の関心が薄れているのか、PR 不足かどう考えているのか。
- ・（事務局）途中経過の報告だったため、情報のインパクトが小さかったのではないかと考えられる。ただ、この 1 年を通して開催してきた説明会や傍聴可能の委員会、懇談会に参加しなかった層が、この 3 月の説明会に初めて参加されるケースが多く確認できたため、新たな層にアプローチできたのは成果だと考える。
- ・（委員 H）新文化ホールの情報には面白みがないので、人が来なかったと考えられる。
- ・（委員長）大きい事業をする際、意見が一定出るのは認識している。再検討委員会のルールに従って進行していきたいと考えている。

―委員 J からの説明―

- ・（委員 J）芸能事務所やイベンターは、「地方の 1500 席へアーティストを送り出すのは勇気がいる。1000 席程度が望ましく、空席と 1000 席以下に抵抗感がある。」ということだった。市民が使うホールであるが、これからの世代が使っていくことも期待しながら考えていきたい。市が興行主へ福知山への興行が可能かどうか聞いても当たり障りない答えしか返ってこないと思うため、このように市民が調査した方が、興行主らの本音が聞けると考えている。
- ・（委員 H）今の内容に賛同する。第 3 回の委員会にて、客席のおおよそのキャパシティを決めるにあたって 500～700 席、800～1200 席、1300～1500 席の 3 分類から選択する提案をもらったが、この分類は委員長が考案されたものか。
- ・（委員長）これから議論する上で、まずは規模から考えていくべきだと考えた。再検討委員会として、どの方向性で検討していくかを定めるためにまずは大まかに客席数を選択する提案をした。
- ・（委員 H）800 席に決まった場合、良いところと悪いところの話ができるのか。
- ・（委員長）機能や立地場所を検討する上で決めていく内容だと思っている。
- ・（委員 H）メリット・デメリットがわかっていない状況ということか。
- ・（委員長）あくまで大まかな方向性を決めたということになる。機能についてはこれから検討していくことになる。
- ・（事務局）厚生会館のステージが狭いことによるデメリットがある中で、ステージに見合う客席数という話が必要とあった声を踏まえて、一つの目安として協議したと認識している。市民懇談会のニーズを含めて、この場で議論しているため、何も考えていないというのは違う。
- ・（委員 E）席数のベースアップの議論はどうか。
- ・（事務局）サウンディングをする上で、事業者の率直な意見を聞く必要がある。客席は少ない方がいいという意見は一定あるため、席数に幅を持たせた状態で意見を訊くべきと考える。
- ・（委員 H）800 席になると再々検討委員会を立てることになると考える。
- ・（委員 C）使う側のことも視点を考える必要がある。この町にふさわしいホールを検討するべきである。
- ・（委員 I）800～1200 席と幅を持たせた上で、民間企業がどのような内容をもってくるか気になっている。その内容を踏まえて検討すればいいと考えている。

3. 協議事項

(1) サウンディング型市場調査における質問について

―再検討内容の説明―

- ・ (委員 E) 募集要項はどのように出すのか。
- ・ (事務局) 本日、委員内で内容等を確認し、HPなどで公開する予定。直接事業者にアプローチすることも考えている。
- ・ (委員 E) 要項が大まかであると感じる。想定している業種はどう考えているか。
- ・ (事務局) この段階のサウンディングでは、イベント事業者よりも、設計事務所、コンサル、ゼネコン、リース関係、建設と連携してオペレーションを組んでいる事業者は興味持ってもらえるのではないかと考えている。
- ・ (委員 G) 福知山市の経済や文化、歴史を踏まえた上で考えてほしい。
- ・ (委員 F) これまでの議論では800～1200席として話が進められた。サウンディングの質問内容に適切と思われる席数を聞く項目があるが、そこで出た回答はどうするのか。
- ・ (事務局) 委員会が提案する800～1200席以外にも適切な座席数があるのならその意見も聞き、複数の材料を踏まえた上で座席数を決めたいという意図で質問項目を入れた。
- ・ (委員長) 候補地も踏まえた回答が出てくると考えている。それにふさわしい質問が必要だと考えている。
- ・ (委員 D) 事業者がホール事業のリスクについてどのように考えているのかを質問をしたい。
- ・ (委員 J) どういった機能を設けるべきか、ある程度決定した上でサウンディングに臨む方がいいのではないかと考える。
- ・ (事務局) 文化活動に関する機能について、基本計画には3点記載している。ホール機能、創作活動機能、交流機能である。事業者それぞれの知識を聞けるような整理をすれば、具体的な意見が聞けるのではないかと考えている。
- ・ (委員 I) 基本理念、基本計画は理解をしていただいた上での参加という認識か。
- ・ (事務局) 応募いただく企業によっては、場所、規模、費用の議論になることも予想されている。
- ・ (委員 E) 業種は設計コンサルで、基本計画をベースにすると、市民利用を中心としたアイデアが多くなりそうである。そうなった場合に軌道修正ができるのか。第三者の声は大きいと思う。
- ・ (委員長) すべて参加事業者の提案どおりにしなくてはいけないものではない。
- ・ (事務局) 本市のホールはこれまで貸館事業のみだった。それではだめだということで、市民利用の部分を追加した。どちらかが必要ということではなく、興行利用も市民利用もバランスをとっていく必要がある。その辺りを踏まえてサウンディングを行うことを考えている。
- ・ (委員 C) 新文化ホールは市民のために建設するという基本理念は正しいということでもいいか。
- ・ (委員長) 新文化ホールは誰のために、何のために作るのか明確な答えが出ている。
- ・ (事務局) 市民のために、未来の世代のために、様々なアプローチ方法はある。基本計画では舞台芸術がフォーカスされていた。どのような機能を持たせていくのかはこれから議論する必要がある。基本理念の変更はない。
- ・ (委員 J) サウンディングでアイデアをもらい、それを再検討委員会で議論するということで認識はあっているか。
- ・ (事務局) 認識はあっている。
- ・ (委員 E) 再検討で詳細内容が決まった場合、再度サウンディングは行われるのか。
- ・ (事務局) 追加の質問が出てくるとは想定している。ただ、事業者の数や内容によって変わることがある。1回で全部聞き取れる内容ではないと考えている。

- ・（委員長）生田アドバイザー、サウンディング調査についてアドバイスをいただきたい。
- ・（生田アドバイザー）あくまで、議論している情報を提供して意見をいただく場になると考えている。有効な点は、民間視点の意見をもらえる機会であること。その内容を再検討委員会で再度議論することが重要であると考えている。
- ・（委員 D）要望にあった有名アーティストが福知山市で興行可能かどうかのヒアリングは必要だと考える。
- ・（事務局）文化活動としてではなく、地域おこし、まちおこしの事業として芸能事務所にアプローチすると対応いただけただけ経験もあるため、そこは別軸で動くことも考えられる。

（２）令和 6 年度の再検討内容について

―再検討内容の説明―

- ・（委員 J）1000 人埋まるイベントがあるのに席数を少なくしてしまうことは、文化の規模を自ら縮小してしまうことになるのではないかと考えている。
- ・（委員 C）中丹文化事業団が主催するイベントは 300～400 席くらいしか埋まらず、その会員についても当初の人数よりも減ってきている。よって場所や人口流動を踏まえて、かなり覚悟を決めて集客を考える必要がある。中丹文化会館の催しの来場者の割合は、綾部から 50%、福知山から 30%、その他舞鶴や外部である。その現状を踏まえると、かなり覚悟を持つ必要がある。
- ・（委員 E）文化ホールをきっかけに文化の拠点をつくることは腹をくくってやらなければいけないと考える。最低 1000 席にすれば厚生会館の内容は包括できる。また、新たな事業の掘り起こしのことも考えると席数を縮小しなくてもいいと思う。
- ・（委員 H）座席数の関係で、舞鶴総合文化会館しか使われない例もある。1000 人を超える学生がいる高校があることを考えると、1000 席以上は必要だと考える。
- ・（委員 A）財政的なところも踏まえてほしいという意見もあった。未来の子供たちの負担のことも考えて、検討する必要がある。
- ・（委員 G）市民が活動できる、文化を鑑賞できる場として計画が出されたが、内容について市民の意見が反映されていないとして、再検討委員会が発足された。予算、座席数、場所、一つ一つ内容をつぶしていけないといけない。後戻りしないように、まちづくりを踏まえた前向きな検討を行っていききたい。
- ・（委員 D）先日、厚生会館でイベントがあったので、駅に車を置いて歩いて参加してみたが、館までの道中に何も無いと感じた。町づくりの視点は一定必要だと考える。建てた後にどんな風になるのか、どんな町になるのかも考えていけないといけない。市民から愛されるホールにすべきと考える。
- ・（委員 E）席とコストの関係について、席数とコストは比例しない。そこに認識齟齬があったと感じている。
- ・（委員 G）ホールの質を高めることが町の価値を上げていく。
- ・（委員 F）福知山市の駅前には都市計画でまちづくりを実施している。その中で、交流プラザは稼働率が高い。文化ホールの再検討について、市民の意見が十分に反映されていないということが大前提にある。様々な意見を反映し、できるだけ早く建設できるように進めていきたい。
- ・（委員 C）地域公民館で行われている地域の文化活動とも連携し、検討する必要がある。
- ・（委員 J）音楽以外も歴史・文化体験ができるようなホールにしていきたい。福知山市ならではのコンテンツを配信していきたい。
- ・（委員 H）高浜町文化会館で、2 週連続でダンスのイベントが行われており、たくさんの親子が参加している。福知山にはダンスチームがたくさんあるが、誰も福知山ではダンスの発表会をやらうとしない。いいホールができると、開

催されるはず。そのようなホールを作っていきたい。

- ・（委員 G）まさにクオリティの話だと思う。
- ・（委員 J）生田さんに伺いたい。可動席のメリットは。
- ・（生田アドバイザー）可動席は舞台を平土間にでき、席の配置も調整ができる。事故が起きないように監視する必要があるというデメリットはあるが、毎日稼働している。多く使われるのか 500 席。人口 6 万人で、もともと 800 席だったが、そこまで使われていないため 400～700 席で使っている。稼働率は 80%～90%。結果的には可動席でよかったと感じている。
- ・（委員 H）舞台や客席をセットするにはかなりの手間がかかると予想される。
- ・（生田アドバイザー）確かに手間はかかるが、利用者やアーティストなどの使う側に喜んでいただけている。利用者のニーズが叶うように技術を駆使することに技術者はやりがいを見出している。
- ・（委員 A）福知山市の合計特殊出生率は 1.86%になっており、京都府では 2 位、全国でも 50 位に入る。その前の数字は 2.02 と日本でも 33、34 位に入る。少子高齢化は進んでいるが、のびしろがあると考えている。それを踏まえて議論していきたい。
- ・（生田アドバイザー）皆さんの新しいホールにかかる熱い思いが素晴らしいと感じている。皆さんが描いていることは一致しており、そこたどり着くルートが違うだけだと感じている。福知山には歴史的なキラコンテンツが多く存在している。有名人が来るかどうかは座席数の問題ではなく、福知山市のオリジナリティの問題だと考えている。ここから有名人を生むような、子供たちが有名人になっていくような環境をつくることが重要だと考えている。そのためにはホールで日常的にどのような文化活動が行われるかが重要だと考えている。文化ホールはあくまで教育の場である。ぜひそう言った未来図を描きながら、検討をしていただけるとよいと感じた。
- ・（委員 G）ホールに福知山の木材を使うよう検討してほしい。

以上